ています。地域の観光プロジェクトに直接携わりながら、専門的知識と実践的知識を組み合わせて課題解決に取り組む訓練をいたします。専門的知識は、共感デザイン、関係デザイン、共創デザインの組み合わせで学びますが、これらがそれぞれ、先端観光科学研究センターの研究部門とも対応する形になっています。特にここ北陸・石川・金沢の地域は、観光資源にあふれたフィールドですので、学生たちには、この地域フィールドを十分に活用した学習を体験してもらい、そして地域定着、地域の観光イノベーションの実践者になってもらいたいと考えています。

卒業者の進路としては、旅行業・宿泊業という従来の観光産業の領域はもちろんのこと、観光的な「共感」を資源にしたいと考えているあらゆる産業群や、政策サイドの専門家や起業家など、各界のイノベーターとして活躍してもらう将来像を描いています。先端観光科学研究センターも、観光デザイン学類も、どこまでできるかは、これからの取り組み次第ではありますが、地域と大学の資源を最大限活用して、地域の皆様と実績を積んで参りたいと思います。厳しく温かくご支援いただければ幸いです。

COLUMN 路を拓く

移民と観光

松田真希子

移民の観光化が進んでいる。最も有名なものの一つがニューヨークのTenement Museumだ。マンハッタンのオーチャード・ストリートにある2棟の長屋と、ローワー・イーストサイドにある周辺地域のガイドツアーを通じて、移民や出稼ぎの体験談を共有している。1860年代から1980年代の元住民の住居を再現した建物のツアーや、彼らが住んでいた地域のウォーキングツアーに参加することができる。一見すれば古びたビル群だが、そこに身を寄せた世界中の人々が何を夢見てマンハッタンに移民に来たかを追体験することができる。アメリカにおいて移民が国家の形成に大きく寄与していることを肯定的に捉えていることが、こうした観光化に繋がっていると思われる。

日本にも移民と名づけられることはないが約300万人の在住外国人がいる。そして、外国人集住地区が観光地になることもある。神戸の山手居留地、横浜の元町や大阪の鶴橋などだ。しかし、多くの場合、現在進行形の移民の集住地区である観光地と見なされていない。

現在進行形の集住地区ではなく、歴史になったものが観光資源化するようである。神奈川県大和市のいちょう団地、愛知県豊田市の保見団地など現在進行形で外国人化が進んでいる地域は、人口が減少し、労働力不足を補うために外国人が流入する傾向にある。街自体にパワーがなくなっていることも多い。外国人住民の集住化により、町が活性化し、観光地化することができれば、理想的だ。そのためには外国人住民を重要なメンバーと見なし、社会参加を推進することが重要だろう。

FCTS
The Frontier Center for Tourism Science Kanazawa university

金沢大学 人間社会研究域附属 先端観光科学研究センター

〒920-1192 石川県金沢市角間町 Kakumamachi, Kanazawa, Ishikawa 920-1192 JAPAN
URL http://tabi-sciences.w3.kanazawa-u.ac.jp info-tabis@ml.kanazawa-u.ac.jp

先端観光科学研究センターニューズレター 2022年 3月31日発行